

特集

放送分野のアーカイブシステム

現状と展望

2011年7月25日以降の放送事業は地上デジタル放送体制となる。どういった変化を生み出せるのか。「生まれる」という受け身ではなく、「変える」という主体的な課題として考えたい。そのポイントの一つがアーカイブだろう。本誌別冊『MXFによる放送ワークフローの変革 The FileBase Book』で、次のような問題提起がある。

「従来のアーカイブについての発想は、使用したものの二次利用に主眼が置かれていた。これは倉庫的な発想である。一歩進めて、各所に分散配置されたサーバに蓄積されたものまで有効活用してファイルベース化のメリットを生かす。これは物流センター的な発想である。さらにもう一歩進めて、放送システム内の生放送も含めてアーカイブと考えてみてはいかがだろうか」(25頁)。そして「50年以上続いたストリームという時間軸同期のワークフローから、ファイルベースという時間軸からの解放を可能とする、ワークフローの変革を成し遂げる……」(27頁)チャンスなのである。

さあ、アーカイブの新たな発想へ、まずは現状から考えよう。

写真はNHKアーカイブスのフィルム保管コーナー

特集構成

- NHKと民放キー4局(TBS、テレビ東京、フジテレビ、テレビ朝日)のアーカイブ運用を聞く——28~36
- 技術展望レポート
【記憶メディア】慶応大学 黒田忠広教授「1,000年も使える記憶装置デジタルロゼッタストーン」——37
【高速検索技術】株式会社アニモ「音素検索技術AnimoSearchの提案」——38
- 参考レポート
【図書館のデジタルアーカイブ】先進企業イスラエルのEx Libris社に聞く——39
- 「テープ」はいつまで存在するか ~ソニー湖西サイトでVTRデッキの運命を聞く~——40
- 特別対談 東京大学教授 江崎浩氏×弁護士 牧野二郎氏
「近未来のアーカイブを考える」——41~43
- 本誌編集部 取材を終えて「アーカイブの行方」——44
- デジタルアーカイブ支援提案
1 ケーブル・ジョイ：死蔵を再活用へ“チェンジ”する「クロスメディアエンコードサービス」提案
2 NEC：ファイルベース時代のメディア・アセット提案
3 日本IBM：LTO-5の提案
4 朋栄+朋栄アイ・ビー・イー：LTR-100HSの提案